

逆配列による複合語辞典の試み（II）

要 春 光

1. はじめに

拙稿「逆配列による複合語辞典の試み（I）」⁽¹⁾において作成した、逆配列による複合語のリストを基に、複合語を、主に第一要素と第二要素との関係から考察する。このリストは、*Alphabetic List of Two-Noun Phrases*⁽²⁾を逆配列にして作成したものであり、そのタイトルにもあるように、複合名詞の中の、「名詞＋名詞」の型のものである。

2.1. 複合語の定義

複合語とは、独立して生じうる2個（以上）の語を連結することにより形成された語で、文法上も意味上も、1語としての機能を持つものである。

2.2. 複合語の特徴

1. 複合語の意味は、構成要素の意味の総和にはならず、むしろ構成要素の持っている一部の意味や特徴を表し、特殊化されることが多い。

例) hot dog ホットドッグ (犬の一種ではない)

darkroom 暗室(必ずしも、いつも暗い状態とは限らない)

2. 第一要素に、第一強勢が置かれることが多い。これは、第一要素が特徴づけをする機能を持っているからである。

cf) dárkròm (暗室) — a dârk róm (暗い部屋)

3. 1語で綴られることが多い。ハイフンで結ばれる場合もあれば、2語で表記される場合もある。複合語として確立されるにつれて、1語で綴られる傾向が高くなるが、表記上の慣例による場合もある。次の語は辞典によって表記が異なり、3通りの形が見られる。

flowerpot / flower-pot / flower pot (植木鉢)

2.3. 複合語の構造

1. 複合語を形成する構成要素の観点から、次のように分けられる。

- 1) 構成要素のどちらも単一語であるもの：

white paper (白書)

- 2) 第一要素が属格のもの：

barber's shop (理髪店)

- 3) 語群から成るもの：

door-to-door (戸別(訪問)の)

- 4) 構成要素に、複合語または派生語が含まれるもの：

long-distance call (長距離通話) / pinch hitter (代打(者))

2. 主要部 (Head) がどちらにあるかという観点から、次のように分けられる。

- 1) 頭部に主要部があるもの：

mother-in-law (義母)

- 2) 末尾に主要部があるもの：

opera house (オペラ劇場)

3) どちらが主要部とはいえない, 対等の関係にあるもの:

ding-dong (ガランガラン)

4) 同格の関係にあるもの:

girl friend (ガールフレンド)

以上4種類の型があるが, 構成要素のいずれかが主要部であり, 他はそれを意味上限定していることが多く, 特に2)の末尾に主要部があるものが非常に多い。

2.4. 複合語の分類

複合語はほぼ八品詞にわたって見られるが, 語形成能力の高いものは, 次の四つである。

1. 複合名詞 (compound noun)

newspaper (新聞), rainbow (虹), etc.

2. 複合形容詞 (compound adjective)

manmade (人造の), waterproof (防水性の), etc.

3. 複合動詞 (compound verb)

baby-sit (子守をする), overflow (あふれる), etc.

4. 複合副詞 (compound adverb)

however (どんなに〜でも), nevertheless (それにもかかわらず), etc.

ほかに, 複合代名詞 (compound pronoun) — somebody, himself, etc. / 複合前置詞 (compound preposition) — into, onto, in spite of, etc. / 複合接続詞 (compound conjunction) — whereas, as if, etc. などある。

3. 複合名詞

これから複合語の中の，複合名詞について見ていくことにする。

複合名詞を形成する要素の組み合わせの型は，主に次のようになる。第一要素に来るものは，名詞，形容詞，動詞，前置詞の四つの品詞のみであり，第二要素は，ほとんどが名詞である。したがって，次の四つの型にほぼ収まる。

1. 名詞＋名詞の型

housewife (主婦), ring finger (薬指), etc.

2. 形容詞＋名詞の型

first name (名), longhair (インテリ), etc.

3. 動詞＋名詞の型

catch phrase (キャッチフレーズ), go-kart (ゴーカート), etc.

4. 前置詞＋名詞の型

afterimage (残像), overtime (時間外), etc.

4.1. 名詞＋名詞の型

本稿で使用している逆配列のリストは，前にも述べたように，複合名詞の中の，名詞＋名詞の型のものである。そこで次に，名詞＋名詞の型について見ていくことにする。

1. 意味を基準にした分類

2.3.2.で述べたように，末尾，つまり第二要素に主要部があり，第一要素がそれを限定している型が非常に多い。それを意味関係から分類してみると，大体次のようになる。

- 1) 目的—第一要素が, 目的, 機能, 用途を表している :
butter knife (バターナイフ), *foot warmer* (足温器), *ski boot* (スキー靴), etc.
- 2) 動力—第一要素が, 第二要素を動かす, あるいは働かせるものになる力を表している :
dog sled (犬ぞり), *motor mower* (動力芝刈り機), *steamboat* (蒸気船), etc.
- 3) 生産(物)—第一要素が, 第二要素によってつくられるものを表している :
glassworks (ガラス工場), *honeybee* (ミツバチ), *papermill* (製紙工場), etc.
- 4) 材料—第一要素が, 第二要素を形成している材料, 原料等を表している :
corn whisky (コーンウイスキー), *stone bridge* (石橋), *straw hat* (麦わら帽子), etc.
- 5) 時—第一要素が, 時間, 月日, 季節等を表している :
Christmas card (クリスマスカード), *morning call* (モーニングコール), *winter sleep* (冬眠), etc.
- 6) 所—第一要素が, 場所, 地名, 生息地等を表している :
Beijing duck (北京ダック), *Japan cedar* ((日本)杉), *sea lion* (アシカ), etc.
- 7) 種類—第一要素が, 第二要素の種類, あるいは一部を表している :
bar code (バーコード), *color film* (カラーフィルム), *folk song* (フォークソング), etc.
- 8) 職業—第一要素が, どのような仕事, 職種かを表している :
bookseller (本屋), *mailman* (郵便集配人), *newsboy* (新聞

売り(少年)), etc.

- 9) 人名—第一要素が, その創始者, あるいは名誉から名付けられたことを表している:

Carnegie Hall (カーネギーホール), *Kennedy Airport* (ケネディ空港), *raglan sleeve* (ラグラン袖), etc.

- 10) 性別, 身分—第一要素が, 男性・女性, あるいは身分等を表している:

boy scout(ボーイスカウト), *queen ant*(女王アリ), *woman power* (ウーマンパワー), etc.

- 11) 類似—第一要素の外観, あるいは全体の特徴・雰囲気有していることを表している:

dog-ear (ページの隅折れ), *dog paddle* (犬かき), *eggplant* (なす), etc.

- 12) 特殊化—第一要素が, その特徴や銘名の由来等を特殊化したものを表している:

bottlenose(バンドウイルカ), *butterfly*(蝶), *horse chestnut* (マロニエ), etc.

以上であるが, 意味関係を基にした分類では, ある複合名詞が, 必ずしも一つの項目のみに属するとはいえず, 二つ, あるいはそれ以上の項目にまたがることもある。例えば, *shot glass*。これは, a) ストレートのウイスキー1杯分を量るものなら, 「目的」の項目に入るし, b) *beer glass* (ビアグラス), *wineglass* (ワイングラス) のように, ウイスキーをストレートで飲むためのグラスなら, グラスの「種類」ともいえる。

2. 文法を基準にした分類

名詞+名詞の型を文法関係から分類してみると, 大体次のようにな

る。

1) 主語—動詞の関係

a) 名詞+動詞からの転換名詞:

bullfight (闘牛), fleabite (ノミの食い跡), snowfall (降雪), etc.

b) 名詞+動詞からの派生名詞:

birdbath (小鳥の水浴び場), brain death (脳死), dollar shortage (ドル不足), etc.

c) 動名詞+名詞:

flying saucer (空飛ぶ円盤), shooting star (流れ星), working couple (共働き夫婦), etc.

d) 動詞からの派生名詞+名詞:

carrier pigeon (伝書バト), distribution curve (分布曲線), suspension bridge (つり橋), etc.

2) 動詞—目的語の関係

a) 名詞+動詞からの転換名詞:

area study (地域研究), heart transplant (心臓移植), mousetrap (ネズミ捕り), etc.

b) 名詞+動名詞:

bird watching (野鳥観察), detail drawing (詳細図), homecoming (同窓会), etc.

c) 名詞+動作主名詞:

bench warmer (補欠選手), icebreaker (砕氷船), shoemaker (靴屋), etc.

d) 名詞+動詞からの他の派生名詞:

air pollution (大気汚染), bank robbery (銀行強盗), marriage certificate (結婚証明書), etc.

e) 動名詞+名詞:

steering wheel (車のハンドル), stepping stone (踏み石),
sticking plaster (ばんそうこう), etc.

3) 動詞一場所・時間・道具の関係

a) 名詞+動詞からの転換名詞:

〈場所〉 homestay (ホームステイ) / 〈時間〉 night watch
(夜警) / 〈道具〉 lip comfort (口先だけの慰め), etc.

b) 名詞+動名詞:

〈場所〉 sea bathing (海水浴) / 〈時間〉 winter meeting (野
球の選手トレード会議) / 〈道具〉 picture writing (絵文字
による記録), etc.

c) 名詞+動作主名詞:

〈場所〉 housebreaker (押し込み強盗) / 〈時間〉 night por-
ter (夜勤のフロント係) / 〈道具〉 record player (レコード
プレーヤー), etc.

d) 名詞+動詞からのその他の派生名詞:

〈場所〉 room service (ルームサービス) / 〈時間〉 night
blindness (鳥目) / 〈道具〉 machine translation (コン
ピューターによる自動翻訳), etc.

e) 動名詞+名詞:

〈場所〉 boarding house (下宿屋) / 〈時間〉 hunting season
(狩猟シーズン) / 〈道具〉 flying carpet (魔法のじゅうた
ん), etc.

以上名詞+名詞の型について見てきたが、これらはいずれも内心複合語 (endocentric compound) である。内心複合語では、主要部が末尾、つまり第二要素に来ている。名詞+名詞の型には、数は少ないが、外心複合語 (exocentric compound) のものもある。外心複合語では、複合

名詞の場合、主要部となる構成要素はない。ある事物の何らかの特徴を引き合いに出して、その事物全体を表している。人物に関するものが多く、意味としては、しばしば軽蔑的な印象を与えるものが多い。

例) beer belly(ビール腹の人), bonehead(まぬけ), butterball(でぶ), crackpot(変り者), shutterbug(写真気違い), windbag(おしゃべりな人), etc.

4.2. 名詞＋名詞の型と語順

古期英語以来の屈折語尾が消失してしまった近代英語においては、語順が重要な役割を果たすことになった。つまり語の配列順序によって、文法的関係を示すことになったのである。特に次の二つは、語順によって決定されるようになった。

1. 動作の主客関係

これは、行為者－行為－目標という語順によって示される。

2. 修飾の方向

これは、修飾語－主要語という語順によって示される。

名詞＋名詞の構造は、複合名詞の中でも、形容詞＋名詞や前置詞＋名詞のような統語的構造ではなく、反統語的構造である。しかし、近代英語における語順の確立とその語順の及ぼす圧力から、副詞を除いて、単一の修飾語は、一般的に、主要語の前に置かれるようになった。これについては、C. C. Fries⁽³⁾によって既に明らかになっているように、近代英語、特に現代標準英語では、単一の形容詞的修飾語のほとんどが、その修飾する名詞の直前に位置している⁽⁴⁾。この名詞の前に来る名詞修飾語を、その相対的な語順に並べてみると、基本的に次のようになる。

all the ten fine old stone houses

VI V IV III II I N

これからもわかるように，名詞直前の I の位置 (上の例では stone)こそ，名詞修飾語としての機能を持つ，名詞の来る位置である。ということから，名詞＋名詞の型の複合名詞は，おおかた修飾語－主要語という語順であり，第一要素が修飾語で，第二要素が主要語といえることになる。したがって，個々の構成要素は同じであっても，語の配列順序によって，4.1. で見てきたように，意味に違いが生じることになる。

例) a flower garden (花園)－a garden flower (庭の花)

a horse race (競馬)－a race horse (競馬馬)

5. 逆配列による見出し語

逆配列の見出し語については既に説明しているが⁽⁵⁾，簡単に言うと，見出し語が，後ろ，つまり語尾からアルファベット順に配列してあるということである。したがって，a の項というのは，-a で終わる語の項ということで，-a, -aa, -ba, -ca ……というようになる。例えば，d の項をちょっと並べてみると，次のようになる。

bind	blind
find	color-blind
hind	mind
behind	remind
kind	grind
mankind	wind
humankind	trade wind
unkind	whirlwind

この配列を複合語辞典に用いようというのである。

その理由としては、英語では、語頭よりも、どうも語尾の方に重要性があるのではないかということである。

例えば、英語では、接頭辞は内心構造をつくり、接尾辞は外心構造をつくる傾向があることが知られている。よく知られる例として、ungentlemanliness という語があるが、これに語形成の順序と、内心構造・外心構造の区別を書き入れてみると、次のようになる。

3	1	24
u	ngentleman	liness
内	内	外外

この例からもわかるように、外心構造は、もとの語の機能を変える訳であるから、重要である。

また別の点では、英語の詩の作り方においても、押韻形式として、脚韻を用いていることが挙げられる。

複合語の場合も、これまで見てきたように、大部分が内心構造ではあるが、語尾の方、つまり第二要素に主要部が来ていて、重点が置かれている。

以上、英語においては語尾に重要性がありそうだとということをかながみて、複合語の見出し語を逆配列にすることで、主要部のある第二要素で引くことができ、それによって、語頭からアルファベット順の配列ではばらばらだったことが、まとまって並ぶようになり、気がつきにくかったことが見えてきたりするようになる。

例えば、語頭からの配列ではばらばらだった～ station は、逆配列では次のように並ぶ。

service station	radio station
fire station	radar station
flag station	weather station
coaling station	water station

filling station	gas station
dressing station	express station
mail station	flight station
union station	experiment station
migration station	way station

こうしてまとってみると、station は、学校で初めに「駅」と教わるが、「(官公庁・役所の) 地域本部・施設」, 「事業所」, 「研究所」, 「観測所」, 「放送局」, 「定位置」, 「人の社会的地位」等を表していることが、一目でわかるのである。

6. おわりに

複合語に関しては、まだ解決されていない問題も多く、今後逆配列の複合語辞典も参考にしながら、さらに研究されなければならない。

〈注〉

- (1) 『北海道武蔵女子短期大学紀要』第14号。
- (2) Alice Morton Ball, *The Compounding and Hyphenation of English Words*, Funk & Wagnalls.
- (3) “On the Development of the Structural Use of Word-Order in Modern English,” *Language* 16.
- (4) Fries の調査によれば、1,489 個のうち、94.9%が名詞の直前に位置している。
- (5) 「逆配列による複合語辞典の試み (I)」(『北海道武蔵女子短期大学紀要』第14号)。

〈参考文献〉

- 荒木一雄・安井稔 (編) 『現代英文法辞典』三省堂
 大石強 『形態論』(「現代の英語学シリーズ」4) 開拓社
 郡司利男 『英語学ノート』こびあん書房
 『英語学習逆引辞典』開文社

Ball, A. M. *The Compounding and Hyphenation of English Words*. Funk & Wagnalls.

Fries, C. C. "On the Development of the Structural Use of Word-Order in Modern English," *Language* 16.

小学館ランダムハウス英和大辞典 (第2版)

研究社新英和大辞典 (第5版)